

The Oriental Economist 最新号広告一覽（一九三八年）

望 月 詩 史

本資料は、一九三八年一月から十二月までに『東洋經濟新報』（以下『新報』と略記）に掲載された The Oriental Economist（英文東洋經濟新報、以下 O E 誌と略記）最新号広告一覽であり、拙稿『The Oriental Economist 研究序説——創刊初期を中心——』（『同志社法学』三九二号、近刊）所収）に卷末資料として掲載した「資料二 O E 誌最新号広告一覽（一九三四—一九三七年）」の続編である。創刊の経緯や広告の全体的な傾向については、同論文で詳しく触れているので、ここでは本資料に関する最低限の説明にとどめる。

さて、東洋經濟新報社が O E 誌の創刊を決断したのは、日本の政治・經濟事情が諸外国から誤解され、それが日本の外交や貿易に支障をきたしている現状に強い危機感を抱いたからである。そこで、日本の情勢に関する正確な情報を海外に発信する必要があると判断して、O E 誌の創刊に踏み切った。これが東

洋經濟新報社にとって重大な覚悟を要する決断だったことは、本資料をはじめとする『新報』掲載の O E 誌最新号広告からも明らかである。そこでは、最新号の内容を紹介するにとどまらず、海外メディアに O E 誌記事が引用された場合はそれを紹介したり、また O E 誌の存在意義や使命を自信に満ちた表現で説明したりしていた。

それでは、一九三八年の O E 誌最新号広告にはどういった特徴が見られるのだろうか。第一に、通常の最新号広告や一般案内に加えて、二月十九日号より「出版だより」欄が新設されたことが挙げられる。同欄では、度々海外の反響が詳しく取り上げられていることから、本資料では「出版だより」に掲載された O E 誌に関する記事も一覽に収録した。なお、O E 誌関連の記事が登場するのは、『新報』一九三八年二月二十六日号である。「★英文東洋經濟の躍進」の見出しで取り上げられたのは、

清沢洸から東洋経済新報社宛に送られた手紙であり、フランスの新聞にOE誌記事（OE誌一九三七年十二月号掲載のJules I. Bogen, "American Capital and North China"）の翻訳が掲載されている旨が記されていた。これ以降、六月二十五日号までに計五回、「出版だより」欄にOE誌関連の記事が掲載された。

第二に、石橋湛山及び東洋経済新報社と外国の日本研究者とのつながりが明らかとなることである。この点については、前掲「The Oriental Economist 研究序説——創刊初期を中心に——」でも論じているが、引き続き、この年にもそのつながりを確認できる。例えば、OE誌一九三八年六月号の広告が掲載された『新報』一九三八年六月二十五日号には、G・C・アレックスから寄せられた手紙を取り上げて、OE誌が国際平和に大いに貢献している旨の一節を引用している。また、同号の「出版だより」には、OE誌の主張は自身の見解と一致する点が多い旨の内容を記したE・シムペーターから送られた手紙の一部も紹介されている。

ところで、OE誌には『新報』の「編集室より」に該当する欄が設けられていないため、東洋経済新報社がOE誌に対する海外の反響をいかに受け止め、また、多くの困難を伴う同誌の発行をどのように自己評価していたのかなどを知る手掛かりとして、『新報』掲載の広告は非常に有益な情報を提供してくれる。だが、一九三八年を境に、広告の掲載頻度が大幅に低下する。また、広告が掲載される場合も、それまでのように海外の反応

を紹介したり、自らの使命を強調したりする機会がほとんど見られない。その背景には、用紙の削減が影響を及ぼしたと考えられる。特に、一九三八年九月一日より、商工省が雑誌用紙の制限を強化したことが深く関わっていると推測される。『新報』一九三八年十一月五日号に「用紙節約と紙面刷新につき謹告」と題する社告が掲載され、これまで紙の「質」を落として対応してきたが、今後はいよいよ「量」も削減せざるを得ない状況に至った旨が記されている。そして、今後の対策の一つとして、「広告面の圧縮」が明記されていた。一九三九年以降、OE誌最新号広告の掲載頻度が低下し、なおかつ、掲載の場合も広告のサイズは大幅に縮小されたが、そこにはこうした事情が影響を及ぼしていたのだった。

年内最後の発刊となった一九三九年新年特大号（十二月二十四日発行）にOE誌十二月号の広告が掲載された。十二月号の広告として初出であるにもかかわらず、それまでの同種の広告と比べて二つの相違点を確認できる。第一に、サイズが縮小されたことである。最新号広告の初出は必ず一面を割り当てていたにもかかわらず、同号は半面広告だった。第二に、内容が簡略化されたことである。これまでも、確かに一般案内が掲載されたことはあるものの、いずれもそれ以前に最新号広告が掲載されていた。だが、この場合は最新号広告の初出にもかかわらず、海外の反響はもとより記事の内容にも一切触れていない。実際に掲載されたのは、主要目次（英語表記）とOE誌の宣伝

であり、それは「★英文東洋経済の使命」／日本、東洋の経済事情を全世界に向って正しく伝達するにある」及び「★英文東洋経済の特徴」／自由不偏なる主張、正確なる記事「(一)洗練された英語、低廉なる価格」「(二)」は原文における改行を指し、「(一)」は引用者による注記を記した内容だった。なお、同号発刊以降、年末年始の休暇に伴い、三週間休刊となる。次号は一九三九年一月十四日号だが、これにはOE誌十二月号の広告が掲載されていない。翌週二十一日号には一月号の広告が掲載されていることから、十二月号の広告は一度限りの掲載となった。それまでの最新号広告は、少なくとも『新報』に二回以上掲載されていたことから、「広告面の圧縮」が早くもこのような形で実施されたのであった。

前述のように、一九三九年以降は広告の掲載頻度が大幅に低下することからも、東洋経済新報社がOE誌の海外における反響をどのように受け止めたのかなどを知る手掛かりとして、本資料は有益な情報を提供してくれる。初めに紹介した論文・資料と併せて参照されたい。

付記 本資料は、JSPS 科研費 JP15K16993（研究課題「戦時期日本の英文雑誌に関する基礎的研究」）の助成による研究成果の一部である。

(一) 一般案内とは、最新号を紹介するものではなく、「◇世界四十余箇

国の人々が英文東洋経済を読む」「海外宣伝のチャンス……!」「◇真摯な有識階級層が英文東洋経済を絶讃する」など、OE誌の購読を促す文言が記された内容の広告を指す。

(2) 同号では「出版だより」ではなく、「出版部だより」と表記されている（『新報』一九三八年二月十九日号、九七頁）。この表記は、翌号以降、修正されている。

資料 The Oriental Economist 最新号広告一覧（1938年）

凡例

- ・注記は〔 〕で表記した。
- ・「／」は原文における改行を指す。
- ・以下は、原則として表記を省略した。

①内容が前号と同一②主要目次、定価③OE 誌の一般案内（ただし本資料において初出の2月26日号のみ掲載）

OE 誌 巻号数	『新報』 発行日	掲載 頁	内容	備考 ①サイズ②内容 ③その他
Vol. V, No. 1	1 月22日	23	近着の紐育タイムズ十二月一月号によると Japan's War Cost Held not Too Much の標題でオリエンタル・エコノミスト十一月号 Review of the Month 中の Wartime Expenditure Still Negligible なる項を引用してゐる。この記事が発表さるゝや、紐育の外貨邦債相場は一斉に昂騰を示した。本誌の海外に於ける信用の如何に厚いかゞ判るであらう。今や支那事変は戦略戦から外交戦に移った観があるが、本年第一号を送るに当っても本誌の使命に鑑み編集に遺憾なきを期した。	①一面 ②新規
	1 月29日	28		①一面 ②前号と同一
	2 月5日	28		①一面 ②前号と同一
	2 月12日	34		①一面 ②前号と同一
	2 月26日	69	(右) ◇輸出増産は／宣伝から！！ (右) ◇世界四十余箇国の人々が英文東洋経済を読む。 (中央) 海外宣伝のチャンス！！ (左) ◇真摯な有識階級層が英文東洋経済を絶讃する。 (左) ◇英文東洋経済を利用せよ！！ (左) ◇文案翻訳無料・速刻社員参上	①1／5 面 ②OE 誌の一般案内
	2 月26日	81	★英文東洋経済の躍進	①2 段記事

OE 誌 巻号数	『新報』 発行日	掲載 頁	内容	備考 ①サイズ②内容 ③その他
			倫敦で開かれた国際ペンクラブ會議に日本代表として出席され活躍せられた清沢洌氏は現在仏蘭西に滞在中であるが、最近左の如き書信を寄せられた。 “東京のオリエンタル・エコノミストより採擇して本日（一月二十五日）の巴里タン紙に同封の如き記事あり、オリエンタル・エコノミストは今や漸く眞価を認められんとしつつあり、御自重を祈る” 同封された切抜は、英文東洋経済十二月号所載“American Capital and North China”の標題で紐育ジャーナル・オブ・コンマース主筆、J・I・ボーゲン氏から当社へ宛てられた特電の翻訳であった。オリエンタル・エコノミストは最近欧州に於ても読者が激増しつつある。	②「出版だより」
Vol. V, No. 2	3月5日	26	外相イーデンの辭職を繞って、英国外交は微妙な変化を孕んで來た。それはやがて東亞にも或る種の転換をみせるであらうと期待される。吾々の関心は日英外交は如何にすれば調整せしめ得るかに集中する。ロンドン・タイムズ東京特派員として日本在住外人通信員中に重きをなして居る、ヒュー・バイヤス氏は此問題についてオリエンタル・エコノミストの發した忌憚なき質問に対して、極めて率直な回答を寄せられた。此等の論文は海外に於ても大きな反響を呼ぶものとして多大の注意を払って居る次第だ。	①一面 ②新規
	3月5日	73	英文東洋経済新報 —二月号発売— 英国イーデン外相の辭任〔、〕ヒトラー相當の国会演説、新独塊協定の成立、等々、欧州は勿論世界の外交情勢に、一大衝動を与へたこれ等の諸問題は現時の東洋殊に日支問題に如何なる影響を齎す	①2段記事 ②「出版だより」

OE 誌 巻号数	『新報』 発行日	掲載 頁	内容	備考 ①サイズ②内容 ③その他
			<p>であらうか、微妙且つ複雑なる今後の変化は世界各国の全神経を尖鋭化せしめてゐる。吾英文東洋経済新報は所期の目的たる正しき日本の政治経済の姿を正しく世界に認識せしめるために努力を続けてゐるが前号本欄所載清沢泐氏の書簡にもある如く、頗る好評毎号躍進を続けてゐる。</p> <p>二月号の主要内容は 日英国交調整の鍵を探る 英国は日本の立場を諒解〔了解〕すべし 石橋湛山 日本よ〔、〕英国と協調〔協働〕せよ ヒュー・バイアス 第七十三議会日誌 重大なる一月十六日の政府声明、独逸の日支講和仲介の真相 蔣政権絶滅を期する理由 広東の内乱・四川の動揺 昭和十二年度本邦貿易概況 北支河水統制に就て 松田全弘 武士道と資本主義 長谷川如是閑 本誌は学生諸君に生きたる教科書として又時局読本として英語の勉学を兼た最良のものと思ひ御薦めします。一部五十銭。</p>	
	3月12日	30		①一面 ②前号と同一
	3月12日	73	<p>英文東洋経済新報の世界的反響 御承知の様に、ランフォルマシオンはバリーに於いて特に経済記事に力を注いで居る大新聞だ。その一月二十七日号に『日本と経済統制』と言ふ見出しで次の様な記事がある。</p> <p>“此の問題に關して日本側の権威ある意</p>	①2段記事 ②「出版だより」

OE 誌 巻号数	『新報』 発行日	掲載 頁	内容	備考 ①サイズ②内容 ③その他
			<p>見は近着のオリエンタル・エコノミストにみる事が出来る。オリエンタル・エコノミストは東京に於て発行せられる信頼すべき有力な評論雑誌だと述べて居る。その論文の標題は『経済制裁に日本は屈服するか』でフレダ・ユートレイ女史のニューステイツマン誌に掲載された『如何にすれば日本を阻止し得るか』と言ふ論文に対して反駁を加へたものだ。</p> <p>日本は食料品を頗る僅かしか輸入しない（昭和十一年総輸入金額の八％）</p> <p>日本の輸入の中最も多額を占めるものは原料品であるが（昭和十一年総輸入金額の八〇％）その中の半分は織物原料で之は若し日本が外国に織物の輸出を行はないつもりならば輸入の必要は無いものだ。結局最も不足を訴へるものがあるとすれば石油だけだ。詮ずる所日本の海軍力がどれだけ石油輸入の道を確保し得るかの問題にならう。（以下略）</p> <p>既に読者は気付かれたと思ふが之は英文東洋経済新報昨年十二月中の“<i>How Japan Could Be Stopped</i>”の紹介だ。この記事に同感の読者も少なくないと考へて居るが国外に於てもかく反響のあることは、まことに喜ばしい事だ。</p> <p>定価一部五十銭（送料内地一銭）</p>	
Vol. V, No. 3	4月2日	33	<p>事変下に在る事既に拾ヶ月、此間日本の経済機構は如何に変化したか、物価騰貴の我国民生活水準への影響はどうか。此等は国の内外を問はず、齊しく読者の関心事である。海外に於いて既に高評あるオリエンタル・エコノミスト三月号はこれに答へんとするものだ。前号で提出した日英協調問題は意外の反響を惹起したが、本号には特命公使笠間泉雄氏のバイ</p>	①一面 ②新規

OE 誌 巻号数	『新報』 発行日	掲載 頁	内容	備考 ①サイズ②内容 ③その他
			アス氏に宛てられた駁論を掲載した。	
	4月9日	33	“A Monthly Record in English of happenings in Japan and Eastern Asia in the fields of political, social, economic and financial affairs.”	①一面 ②前号と同一 ③2箇所の変更点：Ⅰ主要目次に日本語表記が復活 Ⅱ左記の一文が追記
	4月16日	30		①一面 ②前号と同一
	4月30日	61		①1／5面 ②OE誌の一般案内
Vol. V, No. 4	5月7日	26	未曾有の重大時局に当って、吾々には『内容のある覚悟』が必要である。これは艱難を率直に認め、その打開に最善の方策を断行する能力と決意から生れる。オリエンタル・エコノミスト四月号の「我が為替統制の緩和論」も、その趣旨に基いたもので、海外にも必ずや反響を惹起するであらう。それから前々号のバイアス氏の論文に対し、海軍批評家の駁論を引続き掲載してをいた。尚ほ本号には「日本経済の回顧と展望」を別冊附録とした。	①一面 ②新規 ③「A Monthly～」の表記（一部）に変更点あり
	5月7日	73	オリエンタル・エコノミスト—四月号発売— 一九三四年五月創刊以来国の内外から指示と鞭撻を受けて、今、四月号を発売中だ。吾々は常に『倚らしむべし知らしむべからず』でなしに『倚らしむべし知らしむべし』の政策を支持して来た。特に長期抗戦下の未曾有の重大時局に於ては、吾日本の政治経済が如何なる困難に面して居るか、而して如何に吾々はこの困難を克服し、より以上の発展を企図し	①2段記事 ②「出版だより」

OE 誌 巻号数	『新報』 発行日	掲載 頁	内容	備考 ①サイズ②内容 ③その他
			<p>て居るかを率直に海外に報道することを使命と信じて居る。</p> <p>本号では、極度の行詰りを呈し、斯様な状態に永く放置するならば、吾が産業の上に、引いては国民生活の上に計り知れない害毒を及ぼすかも知れない。為替統制の現況を打開すべき、唯一最善と思はれる策を提起した。その外満州事変以来の日本対満投資の解剖、各種代表バルブ工業の発展等々及特別寄稿として長谷川如是閑氏の日本の工藝美術、某軍事専門家の海軍軍備問題に就いての意見その他を掲載し内容は十分に整備したつもりである。更に『日本経済の回顧と展望』を別冊附録とした。これは携帯の便を考へた四六判とし体裁にも十分考慮を払った。記事としては、政治経済概観、金融銀行、計画及発行資本、株式市場、物価、事業活動、鉄道貨物、倉庫在荷、貿易会社収益、労働、財政を簡明に纏めて、その上十六頁の統計をつけた。</p> <p>某大学では英文経済の演習にオリエンタル・エコノミストを使用して居るさうだが今度の附録などは特に御役に立つと思つて居る</p> <p>定価五十銭、送料二銭、海外十六銭</p>	
	5月14日	34		①一面 ②前号と同一
	5月21日	17		①一面 ②前号と同一
Vol. V, No. 5	6月4日	21	<p>〔便宜上、内容に応じてⅠ・Ⅱの番号を付した〕</p> <p>Ⅰ最近経済使節として欧米を旅行せられた伊藤正徳氏が、オリエンタル・エコノミストは、『日本の財政経済事情を英文で月刊する最も權威ある出版物で、欧米</p>	①一面 ②新規 ③「A Monthly～」の表記がなくなる。価格改定のお知らせが掲載され

OE 誌 巻号数	『新報』 発行日	掲載 頁	内容	備考 ①サイズ②内容 ③その他
			<p>の専門家が常に好資料として通読して居るものだ。（私はロンドン、ベルリン、ニューヨークの三都市で之を直聞いた）恐らくはこの種の出版物として日本唯一のものであらう』と中外週評に書いて居られる。日本の国際信用のため吾々は、敢然歪曲なき公表を続ける覚悟で五月号も此方針に従った。</p> <p>Ⅱ 定価改正の御知らせ</p> <p>オリエンタル・エコノミストは来る七月号から左記の如く低下を改正し、全紙面を改良充実する筈であります。尚ほ前金予約購読料は、六月三十日迄、従来と同じ定価で御受附致します。</p>	<p>る。</p>
	6月11日	20		<p>①一面</p> <p>②前号と同一</p>
	6月11日	71	<p>ニュースの国際性と信頼性</p> <p>オリエンタル・エコノミストはパブリシティをその生命として来た。現在では日本の政治経済事情を知るに最も信用の置ける月刊雑誌として世界中の専門家に読まれて居る。鑑定人の必要がなく、割引の必要もないからだ。五月号は今発売中であるが、本号から英国向の部数は一挙に三百部を増した。社論としては極端なる秘密主義発生の地盤とその弊害。本年一月一四月の貿易情況、昨年下半年の会社収益の変化、造船界の好況、国民所得の推計等を盛った。尚今迄いつも、紙面の不足を痛感して来たのであったが、来る七月号を期して、全面的に改良拡充を試み、統計欄も之と歩調を揃へて一層の整備を期して居る。</p> <p>従って定価も、七月号から一部内地一円、海外は三〇仙又は一志二片、一年前金予約料は、内地十一円海外三弗七五仙又は</p>	<p>① 2段記事</p> <p>② 「出版だより」</p>

OE 誌 巻号数	『新報』 発行日	掲載 頁	内容	備考 ①サイズ②内容 ③その他
			十五志に改正。尚内地読者の予約は六月 卅日迄従来通り。 定価五十銭、〒二銭 一ヶ年郵税共五円五十銭	
Vol. V, No. 6	6 月25日	36	リヴァプール大学経済学部教授 G・C・ アレン氏から来信があった。氏は言ふ『近 年日英関係が思はしくないのは、吾々に とっても甚だ遺憾な事である。此時に際 して、オリエンタル・エコノミストが、 誤解一掃の爲め、紙面を割いて自由な討 論に当てられたのは、実に感謝に堪えな い。貴誌の国際平和に貢献する所頗る大 なるものがある』と。別に、最近英国識 者の対日感情について一文を寄せられ た。六月号には上記の論文の他、所謂門 戸開放主義に就いての考察等を取扱った。	①一面 ②新規
	6 月25日	107	身にしみる愛読者の厚意 最近、関西に居られる紡績業者でオリ エンタル・エコノミストの読者から、親 切な御注意を受けた。それは『インター ナショナル、コットン、ブレチン四月号四 一〇頁に支那に於ける日本紡績工業に 関する貴誌三月号所載の記事が全文転載 されて居る。既に気付かれて居るかも知 れないが、一応御知らせする』と言ふ のであった。吾々はオリエンタル・ エコノミストに関する記事は、充分 気を付けて切抜を作製して居るが、 此時は、問題のコットン・ブレチン が未だ当社に到着して居なかったので、 流石に営業者は早いと感心もし、 多忙の中を知らして下さった御厚意 に強く打たれたのである。今一つ 本誌の愛読者である、米国ハーヴァ ード大学の E・B・シュムペーター 夫人から『日本の発展に就いては、 私の見解と、オリエンタル・ エコノミストに発表され	① 2 段記事 ② 「出版日より」

OE 誌 巻号数	『新報』 発行日	掲載 頁	内容	備考 ①サイズ②内容 ③その他
			る意見とは、一致する所が非常に多い』 旨の書信があった。夫人は、日本の経済 問題の熱心な研究家で、太平洋問題研究 社発行の雑誌に屢々日本問題に就いて寄 稿されて居たが昨年有名な経済学者シュ ムペーター氏と結婚された。此様に各方 面から好意ある反響のあるのは実に嬉し い六月号にはリヴァプール大学経済学部 教授のアレン氏からの寄稿、門戸開放主 義の史的発展、本年度吾国資金拡充の展 望、長谷川如是閑氏の、日本と英国文明 の比較研究等を掲載した。又必ず何等か の反響のある事を期待して居る。	
	7月2日	22		①一面 ②前号と同一
Vol. V, No. 7	7月30日	32	『長期抵抗により、日本に対して勝利を 得ようと云ふのが、蒋介石の一縷の望み であるが、日本は現在、少しも弱って居 ない。茲数年戦争を継続しても、ビクと もしないでらう』とハーヴァード大学 国際情勢調査部の E・B・シュムペター 氏が述べた。氏は日本経済の研究家で、 オリエンタル・エコノミストの熱心な読 者である。本誌は七月号から、増頁を取 行した。再組織下の日本政治経済事情の 正確な分析と紹介を時局柄一層痛感した からである。	①一面 ②新規 ③主要目次の日本 語表記がなくなる
	8月6日	38		①一面 ②前号と同一
Vol. V, No. 8	8月20日	21	紐育に在る、太平洋問題調査会発行の「フ ァー・イースタン・サーヴェイ」には、 殆んど毎号日本に関係ある論文を掲載し て居る。そして論文の終りに主なる参考 資料を挙げて居る中に、いつも必ず、吾 がオリエンタル・エコノミストの名がみ	①一面 ②新規

OE 誌 巻号数	『新報』 発行日	掲載 頁	内容	備考 ①サイズ②内容 ③その他
			られる。これなども本誌が海外に於て如何に評価されて居るかの一例証であらう〔。〕八月号には左記の内容を盛ると同時に、別冊附録『戦時編成下の日本経済の全貌』を添付する。諸彦の御愛読を乞ふ次第である。	
	8月27日	32		①一面 ②前号と同一
	9月3日	23		①一面 ②前号と同一
	9月10日	60		①一面 ②前号と同一
Vol. V, No. 9	10月1日	38	欧州の風雲は嵐を孕んで正に大戦の前夜を思はしめる。此間に大きく浮び上った、チェンバレーンの現実的外交に吾々の関心は集中する。極東に於て事態は既に、事変勃発前とは全く変化した。日英両国政府は互ひに国内世論を顧みながら、現状を基礎として国交を調整すべきである。常に吾国政治経済事情の核心を衝き、之を世界に報道するを使命とするオリエンタル・エコノミストは九月号に於て此問題を社説として他の諸重要事項と共に取あげた。	①一面 ②新規
	10月8日	40		①一面 ②前号と同一
	10月15日	64		①一面 ②前号と同一
Vol. V, No. 10	10月29日	71	広東は一たまりもなく我軍の手中におちた。無敵皇軍の前に、漢口も亦深い動揺が見られる。漢口陥落を契機として、我國の長期建設も大きく展開するであらう。東亜を自己の中に包容するためには確固たる指導原理を必要とする。	①一面 ②新規

OE 誌 巻号数	『新報』 発行日	掲載 頁	内容	備考 ①サイズ②内容 ③その他
			曰く全体主義、曰く個人主義、果して日本は将来に於て如何なる綱領の下に建設を遂行するか。この問題を中心にオリエンタル・エコノミスト十月号は二つの論文を取上げた。更に吾国の人造石油業、造船業の現況その他をも紹介した。御一読を切望する。	
	11月5日	65		①一面 ②前号と同一
Vol. V, No. 11	11月26日	38	世界が、日本の政治経済を論ずる場合、我がオリエンタル・エコノミストは不可欠の資料である。試みにアナリスト（十月十九日号、五二九頁）及び倫敦エコノミスト（十月二十九日号、二一一頁）を開かれよ。その何れにも本誌の名を発見せられるであらう。 我国の長期建設は列強注視の的である。日・満・支を通じて、如何なる経済的变化が生起しつゝあるか、米国門戸開放申入れに対する吾々の態度、月初の対支方針宣言論評、総動員法第十一条問題等を内容として、十一月号を読者の御手許に御届けする。	①一面 ②新規
	12月3日	27		①一面 ②前号と同一
Vol. V, No. 12	12月24日	33	★英文東洋経済の使命— 日本、東洋の経済事情を全世界に向って正しく伝達するにある。 ★英文東洋経済の特徴— 自由不偏なる主張、正確なる記事〔、〕洗練された英語、低廉なる価格。	①1/2面 ②新規 ③1939年新年特大号

（『新報』1938年1月22日号～1939年新年特大号（12月24日）（ただし、臨時増刊号を除く）を基に筆者作成）